

人口	男 2,022 人	世帯数
	女 2,081 人	1,107世帯
	計 4,103 人	(52.9.30現在)

お誕生日おめでとう
ごさいます
上鹿野川 金森福明さん
五男英紀ちゃん
上鹿野川 武田孝一さん
長男将晃ちゃん
上鹿野川 菊地千代定さん
二男善樹ちゃん
影地 富永武雄さん
長女小百合ちゃん
ごめいふくを
お祈りいたします
小敷 二宮佐重さん

新しい農業に挑戦 人情味豊かな大谷地区

大谷地区みてある記

町内随一の名勝御在所山のふもとワキミズから、こんこんと流れることなく多量の清水がわき出て谷となり、大谷の人達の生活と生産を支えてきました。山あいを貫流する大谷川の両側に、白石、影地、広常、久保大平、大屋敷の集落が開け、昭和30年に合併した森を入れて、この大谷は構成されています。今月は、この地区でどのような農業が展開され、どのような課題があるのかカメラを片手にルポしてみました。

大洲・喜多郡一を誇る大型酪農

誇る大型酪農

影地の山肌に横に広がる白い建物、大谷酪農有限会社の牛舎である。これは、昭和四十八年第二次農構事業として四人の酪農家が設立したもので、牛舎四棟には、一六〇頭の乳牛が並び、二二六頭の気密サイロを始め設備は最新鋭のものばかり、大洲、喜多地区では最大の規模といわれています。



大谷酪農 — 影地 —

目につく管理不足のくり園

農協の今年の出荷計画を見ると大谷地区は一〇〇tの出荷が見込まれている。換金作物第一位として畑にまで進出した栗ではあるが、下刈り、施肥、除伐等管理不足の園が目につく。折角の広大な土地がもったいない、地区内の畜産農家の協力を得て、肥培管理、

くり生産量調査表

	栽培農家	面積	出荷量
町全体	戸 693	ha 376.5	t 550
大谷地区	150	52.8	100
町全体に対する割合	% 21.6	% 14.0	% 18.2

～52年出荷計画より～

儲かる養蚕をめぐして

めざして

儲かる養蚕への課題は飼育の省力化、多飼育、桑園土壌の改良といわれています。久保部落内の町道を終点まで走ると、そこには「儲かる養蚕」が着々と完成しつつある養蚕団地があります。六・三haの桑園、二棟の蚕舎は第二次農構事業で完了。

成したもので、現在五戸の養蚕家が年間約五千kgのまゆが生産されています。あがり蚕よりには近隣の奥さん達が雇われ、活気に満ちた笑い声が道路にまであふれています。

共同作業で

しいたけ栽培

十年前の公民館報で協業の芽が見えると紹介された大平のしいたけは、現在も三人の協同作業をより強固なものとして続いています。一寸山に入ると、どこもかしこもほだ木が並び、じつと秋の慈雨を待っている。今春は宇和町から



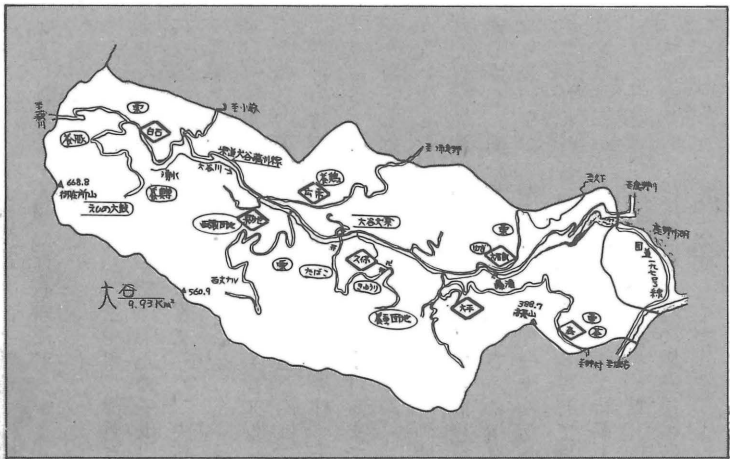
6.3haの桑園の中に蚕舎が — 久保 —

特異作物に賭ける

ダンブで運び、植付は八月までかかったそうです。(大谷地区の椎茸栽培戸数五五戸、年産約五千kg) 米に頼る農業から脱皮、換金作物への移向を考える人は多い。こゝ大谷地区でも先に記したものの他、養豚、養鶏等大規模農家が点在する中で、まだまだ小規模ではあるが近年お茶、ゆず、きゅうりと新しい特異作物にとり組む人達が出て来始めました。

「何んでも出来る地域はとかく移り気が多くなる。いけなんだら、又他の物を作らう」と言わず、その作物に賭け、他の先駆けとなつてほしいものです。

二ページへつづく



集音マイク

○さわやかな秋晴れの一、スプリングにパン喰い競争、ビールのラッパのみ等十七種目に熱戦を展開、二度と見られぬ名人芸？が飛び出し隣りの人の肩をドヤして大笑い。心のふれあいは充分とみた。(9/4 川上商工会スポーツ祭)

○お年寄りの町内視察、どこも便利ようになつて結構なものじゃと感心することしきり。目に見えないトコロを見るのもカンジン。(9/7 中野老人クラブ町内視察)

○参加することに意義がある。しかし、参加する以上勝ちたいのは人情。だが、物の本質は、結果ではなくて経過であることを忘れまい。選手の皆さんに拍手。(9/8 県民体育祭郡大会)

○「共同募金って何んですか」「赤い羽根ですよ」「ああ、赤い羽根運動ですか」「赤い羽根は私達が「助け合い」をうながすシンボル。お金をあつめることもさることながら、助け合いのムードづくりが本当の目的。(9/19 共同募金委員会)

○修学旅行は学校生活の楽しい思い出の一つ。名所旧跡をたずねたことよりも、小使いを使いはたして友達に借りた印象の方が強く残つて「オモシロイ」(9/27 肱中生修学旅行に出発)

部落別人口

年	昭和42年	昭和52年	増減率
部落名			
白石	117人	106人	△9.4%
影地	117	68	△41.9
広常	210	157	△25.2
久保	222	139	△37.4
大平	148	118	△20.3
大屋敷	87	81	△6.9
森	77	66	△14.3
計	978	735	△24.8

※肱川町全体の減少率25.6%

生活にとけこんだ文化活動

さて次に文化面はどうでしょうか。

書道、吟詠、民謡、囲碁、かるたとグループ活動はさかんで所得オンリーとならない、うるおいのある生活が営まれています。

最近、青壮年有志が豪快な「愛媛の太鼓」を、重信町教育委員会の指導をうけて本格的に習っています。

先輩が、文楽、神楽、獅子舞、鹿を習って郷土へ定着させたように、今、新しい和太鼓がこの地域に根をおろそうとしています。

県指定無形文化財

大谷文楽

今から百二十四年前の嘉永六年、淡路の人形芝居吉田伝次郎一座が、巡業を続けて当地方へ訪れたとき、十二代將軍家慶の喪となり幕府は全国各藩に命じて、

歌舞音曲を停止させました。

このため一座の大部分はそれぞれ帰郷しましたが、一部の座員は滞在し、庄屋の世話で部落の青年を集め、人形を操つることを伝授したのが、その始まりといわれます。

今では県内に六つある文楽のうちでも、座員二十数名を揃えた大谷文楽が一番充実しているという評価をうけ、その円熟した演技は見る者を涙の世界に引きこんでゆきます。

農業のかたわらこのような集団の芸術活動が続けることは、困難な事多いと思われませんが、郷土の誇りとするこの古典芸能の灯がいつまでも消えずに、伝承されてゆくことは、みんなの願いです。

今まで記したように、この大谷には古き良き文化を

守る心と、新しい農業に挑戦する活力にみちたフロンティアの姿があります。

緑の自然にかこまれ、人情ゆたかな大谷の里に、一人でも多くの青年が後継者として残って、現状を維持しながら、伝統を継承し、さらに発展することを期待します。

おとなしい大谷人から脱皮

おとなしい大谷人から脱皮

「轟の滝の音を聞き高尾の清き月受けて鍛えあげたる我らこそ大谷粋の健男児フレ、フレ大谷農業に、スポーツにと一生懸命励む姿は美しい。

大谷地区の人達は地形的自然条件の良さも相まって全てのことに活発であり盛んである。

野球、ソフト、バレー等他地区に互して、否、優位に戦えるのは、そうした団結から生れたものだろうか

しかし、今一歩というところの詰めが甘く、惜敗という場面も多い。……が、悔しいというより、すぐさっぱりとした顔になってしまふ。

昔から穀倉地帯といわれた経済的なゆとりがそうしたお、らかな、おとなしい大谷



豊かなたずまい — 影 地から —

まぶたの親子 34年ぶりに再会

した。

「もう、会えることもない」と諦めていた、出迎えるの肉身の方々の対面は、ことばもありません。しかし、やはり気になるのは母親のこと。早く母親に会いたい。澄香さんは、一息入れる間もなく、その日の夜行で母親アヤノさんの待つ肱川町へ向います。

翌二十一日十一時三十分、親子の対面はかないました。三十四年前からみれば、変り果てた母と娘しかし、肌のぬくもりを感じ合いたが、今、まぶたの親子にやと春が訪れています。

澄香さんは、大正十四年七月二十五日、大阪市生野区で生れました。そして、女学校を卒業と同時に、大阪市福島区の官報情報局へ勤務していましたが、同情報局が満洲へ移ることとなりそれに同行して渡満しました。昭和十八年、澄香さんが十九歳の頃でした。

だが、その頃、戦況は切迫し、日に日に激烈の度を深めて行きました。そして、ついに決戦体制がしかれるに至り澄香さんは、牡丹江から、戦場の中で、死闘をくりかえしつつ、やつとの思いでハルピンまでのがれて来ましたが、そして、終戦……

「家族はどうなった。元気でいるだろうか。日本へ帰りたい。その思いが日に日につのります。しかし意に反して帰れる状況はまったくつかむことが出来ませんでした。帰国の望みをたれた澄香さんは、やむなく中国で生きる道を求めなければなりません。中国やがて澄香さんは、中国

人呉新年さんと結婚、住居を黒龍江省肇慶県へかまえました。

あれから三十年、澄香さんは、今では十人の子供の母親となりました。夫新年さんは、今年六十六才、病弱で充分な働きも出来ないと言います。澄香さんは、文字通り一家の大黒柱、十人の子供を育て上げるまでは病氣にもなれません。

一方、日本では母親の城戸アヤノさん。終戦直後行方不明だった澄香さんの消息を何んとかしてつかみたい一心で、八方手を尽して捜しました。ラジオでは尋ね人の放送を、役場や県、国には未帰還者の調査を依頼し、家族も心当りをくまなく聞き歩きました。

アヤノさん一家はもともと大阪に住んでいました。ところが戦時中空襲で家を焼かれ、夫定雄さん（昭和五〇年死去）の郷里肱川へ疎開して帰り、そのまま住むようになりました。やがて、一〇年、そして二〇年と年月が流れましたが、依然として何の音さたもありません。

ついに昭和三十一年一月、「澄香さんの死亡」を認めざるを得ませんでした。戸籍から「澄香」の二字が消えました。しかし、死んだという確証はない。「もしや、中国のどこかで生きているのでは……」そんな思いを懐きつつけて、また一〇年が過ぎました。時は流れ、時代はいかに変わろうとも、アヤノさんにとって、心の晴れる日は一日たりとてありませんでした。

そんな或る日、アヤノさんへ福音が舞い込みました。昭和五十一年五月二十一日のことです。「中国からなつかしい祖国の皆様にお便りいたします。祖国の春は桜の花が咲き花の都の美しい景色を描いていることでしょうか。こちらは、今だ寒く、大雪が降って北国独特の銀世界です。私は、中国に来て三〇年余りになります。永らく別れていた祖国に帰りたいと思いますが、父母の住所が判らず、帰国の手続きが出来ないので困っています。」澄香さんは、父母の現在の住所を知りません。今、かすかに記憶に残る親類を頼って出した便りが、伊予市、大阪東成区そして肱川町をへて、やつとアヤノさんの手に届いたのです。

「やつぱり生きていた」アヤノさんの長かった心痛の日々は、今いっぺんに晴れました。

澄香さんの今度の帰国は六ヶ月間の里帰りです。澄香さんは、十四才の五男存権君と十三才の四女翠子ちゃん、二人のお子さんをつれて、今道野尾の里で苦闘の半生に思いをめぐらせ、そして祖国の風物や生活をしっかりとみしめながら、静かに暮らしています。



御在所山をバックに総合案内所が……



おしらせのページ

赤い羽根は 助けあいのシンボル

「幸せでありたい」と願う心はだれも同じです。しかし、世の中には、それをどうしても果すことの出来ない多くの人が残されています。

たとえば、親を失った子どもたち、身体が不自由なために充分働くことが出来ない方々、あるいは独り暮らしのねたきりのお年よりなどです。

赤い羽根は、助けあいのシンボルです。少しでも多くの皆さんに、あたたかい善意をお願いしたいです。

(肱川町共同募金会)

今年で、ちょうど三〇年になったことから「呼びかけの側と出す側」という今までの運動の在り方から、「自ら参加する共同募金」への方向転換に重点がおかれています。

いままでも、部落や職場では運動会等で、赤い羽根共同募金をお願いしてきています。

豊かな老後へ 大きく前進

昭和五十二年七月から、拠出制の年金給付が九・四パーセント増額されました。支給額は次の表のようになります。

現在加入していない人は、将来より良い年金を受けるために、国民年金に加入しましょう。

例えば、サラリーマンの奥さん方は強制加入者ではありませんが、希望すれば加入することができ、将来の安定した生活に備えることができます。

各 年 金 年 間 支 給 額

老令年金二十五年間納付	五十二年六月まで	五十二年七月から
十年年金	三九〇・〇〇〇	四二六・〇〇〇
五年年金	二四〇・〇〇〇	二六九・〇〇〇
障害年金	一八〇・〇〇〇	一九六・九〇〇
最低保障額 一級	四九五・〇〇〇	五四一・五〇〇
最低保障額 二級	三九六・〇〇〇	四三三・二〇〇
母子、準母子、遺児年金	三九六・〇〇〇	四三三・二〇〇

◇心配ごと相談◇ “お気軽に相談所へ”

- ◎相談時間
各相談日とも 9時～16時
- ◎相談場所
町公民館心配ごと相談室
(肱川町社会福祉協議会)

相 談	担当相談員
10月25日	楠野、山中
11月 5日	佐久保、戒野
11月15日	森本、中野
11月25日	福田、堀尾

事故ゼロを願って 通学自転車の点検

秋の全国交通安全運動が九月二十一日から三十日まで十日間実施されました。肱川町でも期間中に、街頭指導、大谷こじかクラブ安全教室の開催などを行いました。

また、交通安全協会肱川支部では、肱川中学校の自転車通学生九十五人の自転車の総合点検を、九月二十六日に町内の自転車販売業者三人の協力を得て、実施しました。

点検は、車体のゆがみ、ブレーキ、ベル又はブザー後部反射器、ペダル、タイヤ、チェーン、変速機、ライト、その他の十項目について、一台ずつ熱心に行われました。

その結果、九十五台中一ヶ所でも不良箇所のある自転車は四十九台(五十二%)もありました。

不良個所のトップは、ライトのつかないもの二十九台(三十一・五%)、次がブレーキの不良で十一台(十一・六%)、次がベル又はブザーの不良、タイヤの不良………となっています。

修理等が必要とする者には、点検カードを渡し父兄と相談して修理をするよう指導しております。

ご父兄の方も、子どもの安全を願って、ご協力をお願いします。



1台1台を熱心に点検

生かされるテレビ学習 岩谷小学校

学校だより

「できるかな。」教育テレビ(一〇・三〇一・四・四五)を保育所の三十の種が身を乗り出すように真剣に見入っている。

また、理科教室では一、二年生が「ひまわり」教育テレビ(一〇・四五一一・〇〇)を。

ひまわりの種子の芽ばえ、神秘とも思われる美しい開花のシーン、思考をうながす解説と、うつり変わる場面に「芽が出た。」「あ、大きな花。」等と感動のつぶやきの外むだ話一つせず喰い入るように入ります。

先生方の話にも「テレビは感心によく見ます。それに私が言ってもなかなかわかってくれないのに、テレビのはよく覚えていて忘れません。」(保育所)

「テレビの理科や社会の番組は見るとよいと思います。理科では芽が出たり、花が開くところなど時間を縮めた撮影で、子供によくわかるように見せてくれるし、社会は地方では得がたい新しい資料を提供してくれる等、いろいろな面で子供の理解を助けてくれます。ただ時期的に教科書とずれているのはおしいけれども、そこは利用法を工夫すれば……。(低学年)とのこと。

このようなテレビ視聴学習の光景を各教室で見ることができるといいます。

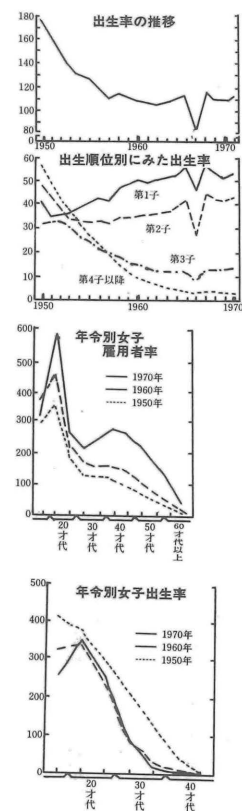
「このような視聴覚教育については、電波にへき地の子供にこそ、してやりたいもの」とひそかに考えていた。しかし、それには最低四五十万円の資金が必要とすると苦慮していた。

生活に役立つ テレビ番組

通商産業省の消費者向けテレビ番組、「ご存じですか奥さま」が今年も十月から十二月まで、南海放送で十三回にわたり、毎週土曜日の午前十一時十五分から午前十一時三十分まで放映されます。

これは、日々の暮らしの糧になる「生きた知識」を与えてくれる番組です。ぜひ見てください。

くらしの指標 (2) 出生率の減少が どう影響するか



- ◆出生率の減少
15才～49才 有配偶女子1,000に対する出生数 (有配偶女子人口の年令構成比を標準化したもの。)
 - ◆3人以上の子を持つ夫婦の減少
15才～49才 有配偶女子1,000に対する出生数 (有配偶女子人口の年令構成比を標準化したもの。)
 - ◆30才代での出生の減少
年令階級別有配偶女子人口 1,000に対する出生数
 - ◆出産、育児からの早期解放
再雇用の増加
年令階級別女子人口 1,000に対する雇用者数
- として、女性のライフサイクルのパターンに変化をもたらした。

資料 厚生省人口問題研究所資料、総理府統計局「国勢調査報告」

乳児健康相談

とき 十一月十日
ところ 十三時～十五時
肱川町公民館

母親学級

とき 十一月十一日
ところ 十三時～十五時
肱川町公民館

行政相談

とき 十一月五日
ところ 九時～十六時
肱川町公民館

役所(国県町)や公社(国鉄、電電公社、専売公社など)の仕事について、苦情や要望など、どんなことでもよい。

アマ無線技士 養成講習会

今春開催された、郵政省認定電話級アマチュア無線技士養成講習会では、受講者の三分の二の方が合格されました。

しかし、日時と農作業面に無理があったという声もあり、農閑期である十一月から十二月にかけて、二回目の講習会が開催されることになりました。

あなたも秋の夜長にペンをとって、アマチュア無線の資格を取ってみませんか。

○開催日 十一月二十一日
十一月二十四日(土、日曜日を除く)

○時間 毎回午後六時三十分～午後九時四十五分

○開催場所 肱川町公民館

○修了試験(国家試験と同じ) 十二月十六日

○受講料 一人一万円

○その他 申し込み要領などの問い合わせは、公民館前の堀 和明氏まで(電話 肱川二二〇六番)